

児童発達支援評価表（こども発達支援センターえがお）

従業者向け

公表日 2026年3月30日

○本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		2か所の個別室があり、隣の児童やスタッフの声が聞こえてしまう現状である。時間の組み方、児童の特性を踏まえた組み合わせ等に配慮している。成長するにつれ、注意力、集中力がついてくる様子が見られている。えがおの環境をうまく生かし工夫をしながら、療育を進めている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		玄関の段差にカラーテープを張る、机の角にリボンを付ける、声掛け等にて、危険に対する意識付けに心がけ、危険認知を高めていきたいと考えている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		施設のルール（入ってはいけない区域等）が視覚的にわかりやすいように示している。教材として使っている、花やプランターを置いたりミニベンチを置いたり、環境を整えながら、仕切りをつくっている。個別室には、動物のマークが示しており、自分の部屋が覚えやすいように示してある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		場面に応じて担当以外のスタッフも関わるようにし、チームワークで「えがお」の雰囲気づくりに力を入れている。個別のスペースとホールでの活動をうまく組み合わせ、効果をあげている。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		疑問に思ったこと、改善すべき点については、その都度、話し合っている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		アンケートの結果と今後の取組みについて、文書にして配付し、同時に、ホームページ記載についても、周知している。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		教材の収納場所、教材の内容、療育の提供の仕方、関わり方等、気付いた時点で声に出し合い、共通理解をし、改善に向けている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			第三者機関による外部評価は実施していない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		足利市、安足等の主催する研修に、内容を選んで参加している。スタッフからの意見を聞きながら、勉強会を計画し、実施している。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		利用当初の思いを振り返りながら、現在の姿を振り返り、新たな願いや思いの変化にも気づき把握していくよう心がけている。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		年2回（9月と3月）児童の発達評価を実施し、児童一人ひとりの発達段階をとらえるようにしている。保護者との面談を実施し、児童の姿について共通理解をし、又、保護者の思いに寄り添っていくよう、心がけている。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		療育の様子について、担当、スタッフ間で話し合い、情報を共有し、個別支援計画を作成し、保護者様に内容を説明をし、同意を得ている。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		えがお独自の「発達評価シート」を使って発達段階を把握し、次のステップにつなげていく手立てとしている。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		家庭との連携、幼稚園、保育園との連携を取りながら、児童の姿を共有し個別支援計画を立てている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		毎月のケース検討会にて、スタッフ間で一人ひとりの児童の情報を共有している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		様々な教材を提供し、興味の幅を広げている。同じ教材を継続して使っていきながら学んだり、目先を変え視覚的に刺激を与えながら意欲をわかせたり…と、工夫しながら進めている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別療育に力を入れている。必要に応じ、交流療育（同時間に療育をうけている児童同士の交流）を、計画的に取り入れている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		児童一人ひとりの関わり方について、共通理解をし、チームワークで進めている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		療育の振り返りを行い、次の療育につなげている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		責任者は、担当と共に療育内容と児の姿について確認し、児童の発達について情報を共有し、療育の質の向上につなげている。療育日誌はスタッフ間で読み合い、確認するようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		一年の前期、後期（年2回）で一人ひとりの発達評価を行っている。年2回の保護者との面談、その他必要に応じ、適宜、面談を実施をし、次の計画につなげている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		必要に応じ、電話等で、情報を提供している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		必要に応じ、保育、教育現場へ出向き、集団生活の様子を見学させていただいたり、個別療育の姿を見ていただいたり、電話等でも情報を共有している。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		保護者の同意のもと、学校に、療育での様子について情報を提供している。入学支援シート等の作成に協力をしている。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて、機会を設けていきたい。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		利用児童の通っている教育・保育機関は、様々な地域なので、個人情報守秘義務の観点からも行っていない
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		「家庭支援プログラム」という名称を掲げてはいないが、情報提供をしたり、児童の関わり方について、共通理解を図っている。
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		分かりやすい説明に心がけている。

保護者への説明等	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の思いや願いを聞き、児童の姿を把握したうえで、児童の発達段階を捉え、目標を立てている。 個別支援計画の説明については、具体的な療育の内容に結び付けながら、丁寧に、行っている。
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		通知文や掲示板などで相談体制を整えていることを周知し、随時、行っている。
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			父母の会はない。
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		随時、行っている。
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPで、療育体制や療育方針等について掲載している。 定期的な会報は発行していないが、必要に応じ、情報を発信している。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類収納ロッカーは、必ず、施錠している。 何気ない会話の中にも、個人的な情報を含まないよう、細かい配慮を怠らないようにしている。
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童の発達段階を捉え、「困っていること」「できるようになりたいこと」等、児童、保護者の思いに寄り添っていくよう、心がけている。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		個人情報守秘義務の観点から、行っていない。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		防災マニュアル、感染症マニュアルを策定し、共通理解をしている。 感染症等の動画を見て、感染防止の為の研修を実施した。 保護者には、通知文として配付し、理解と協力をお願いしている。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練（地震発生 2回 避難訓練（洪水） 2回 不審者侵入対応訓練 2回 *利用者全員の訓練は難しい現状である。スタッフ間の基礎知識、誘導方法、役割分担等について、確認をしている。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		面接時、健康状態について、細かく確認し、把握している。
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食事の提供はしていない。
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に確認している。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		机の角や棚につまづいて転ぶ、担当とぶつかる、小さい教材を口に入れてしまふ、走っていて転ぶ…等のヒヤリハット事例があった。 起こるだろうという危険性をキャッチし、細かい配慮をしていくよう、あらためて、スタッフ間で、共通理解をした。 「ヒヤリハット事例集」として、ファイルにまとめている。
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回、研修を行っている。
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			該当事例はない。

事業所における自己評価総括表				
○事業所名	こども発達支援センター えがお			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日 ~ 2026年 3月 6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40人	(回答者数)	33人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日 ~ 2026年 3月 6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会を重ね、こどもの発達、特性等について、共通理解をしている。</li> <li>・児童への関わり方などについて、良いと思ったこと疑問に思ったこと等、スタッフ間で伝え合うようにしている。</li> <li>・ひとり一人のこどもの姿について、ケース検討を重ねている。</li> <li>・療育の中に、SST(社会生活技能訓練)を取り入れている。どんな場面でもどのスタッフでも的確な対応、連携が出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもの発達の基本」を大切に、全スタッフにて、確認し合っていく。</li> <li>・引き続き、取り組んでいく。</li> </ul>
2	療育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「じっくり楽しくエビデンス」を掲げ、療育の質の向上に努力している。</li> <li>・様々な効果が立証された関わりノウハウをもっている。</li> <li>・細かい配慮をした環境設定(個別室とホールとの組み合わせ、教材の内容、量や場所等)をし、こどもの姿に応じた柔軟な対応をしている。</li> <li>・様々な方面からの教材をそろえている。認知理解の内容、動作、操作について分析しスモールステップで捉えプログラムを組んでいる。教材の使い方、育つ力、効果について勉強を重ねる等、教材の研究に力を入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの姿に応じて、こどもからのサイン、要求、発達段階を的確に捉えらえるよう、勉強を重ねていく。</li> <li>・こどもの行動を予測しながら、事故等を未然に防いでいけるよう、細かい配慮を怠らない。</li> </ul>
3	丁寧な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の受け入れ、電話対応、契約、計画書の説明時、分かりやすく丁寧な対応を心がけている。</li> <li>・療育の内容について、場面を捉えて保護者様に説明をし、共通理解をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、取り組んでいく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	交差点の角に立地しているため、駐車の際の注意、こどもの飛び出し等に注意が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、こどもの飛び出しに対しては、迎えに出向いたり、車まで送り届けたりと「安全」を確保している。</li> <li>・帰りの時、連手していることを確認してから、ドアを開けるようにしている。</li> <li>・駐車場に関しては、スムーズな送迎ができるよう、別の駐車場を確保し誘導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点の角に位置していること、玄関の段差や机の角等、繰り返し言葉掛けをしていくことで、危険認知を高めていく。</li> <li>・スタッフ間で連絡を取り合い、スムーズな対応をし「安全」を確保していく。</li> </ul>
2	非常時の対応(感染症、地震等)についての発信、訓練実施の強化。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別療育なので、利用者全員で訓練を実施することは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種マニュアルを再確認し、スタッフ間はもちろんのこと、保護者様にも周知していく。</li> <li>・スタッフの臨機応変な対応ができるよう、定期的な訓練を実施していく。</li> <li>・「避難訓練」の際は、保護者様に理解と協力を依頼し、計画的に実施していく。</li> </ul>